

# 令和4年度 第1回 子ども・子育て会議 記録

令和4年5月24日(火) 午後1時15分～午後2時45分  
高森町福祉センター2階 大ホール

## 1. 開 会

### 2. 町長あいさつ

令和4年度第1回子ども子育て会議に関係の皆様のご出席をいただきありがとうございます。また、日頃はそれぞれのお立場から高森町の教育・保育行政にご理解・ご協力を賜り感謝申し上げます。

高森町も人口減少が進む中で、これまでの子ども子育て会議の中で町の保育園の方向性を示していただき、吉田河原保育園と吉田保育園の統合により、この4月に認定こども園ぱどまが運営を開始しております。宮原園長はじめ関係の皆様のご協力により本日を迎えることができますことに、感謝申し上げます。

新みつば保育園は、牛牧あんしん市場交差点の広域農道沿いにて、社会福祉法人萱垣会により造成工事が始まっており、先日建物工事の入札が終わり、今後建物の建設に入っていきます。新みつば保育園は120人の定員で予定されており、来年度から民間2園で概ね270人超の定員規模で運営をしていただくこととなります。

新型コロナの影響も受け、高森町の出生率が予想以上に下がっています。子どもの数も少なくなっており、人口全体で見れば、自然増減がマイナス、社会増減では多少プラスになっているものの、転入される方が必ずしも子育て世代ではないので、保育園・小中学校に通う児童が減っている状況です。

そのような状況下でこれまで5園を4園に、内2園を民間に運営委託を進めてまいりまして、来年度下市田保育園を改築するよう町として計画を進めております。全体の人口の推移をみながら、下市田保育園の定員を減らし、現地で保育園の改築を進めてまいりたいと思っておりますが、この場所がハザードマップの土砂災害警戒区域(イエローゾーン)に園庭がかかっていることもあり、定員を見直す中で、将来的に4園が必要ではなくなることもあり得ますので、建設場所も含めて協議してまいりたいと思っております。下市田保育園を改築するのであれば来年度中に改築を考えております。この子ども子育て会議や保護者の方の意見を集約し、町にご意見を寄せていただきたいと思います。

ウクライナの皆さんが高森町に避難してきており、6月から保育園・小中学校に通っていただきたいと思います。山吹の町営住宅を利用していますので、山吹保育園、北小、中学への登園・入学を予定しています。様々なご意見があるかと思いますが、交流の場や学びの場として、この機会を生かしていきたいと思っておりますので、ご理解ご協力をお願いします。

町の課題となっている子育て施策以外にも、小中学校の運営や子育てへの思いについてご意見をいただけたらと思います。どうぞよろしく願いいたします。

### 3. 自己紹介

会長：湯澤 正農夫 氏

副会長：倉澤 千穂子 氏

### 4. 協議・報告事項

(1) 保育園整備の検討経過について  
事務局より 資料5ページ

(2) 今後の保育園整備計画について

#### 【今後の保育園の数、定員について】

事務局より 資料6ページから  
事務局)

全体的に入所児童数は減っている傾向にあります。

数年前までは学年別で100人を超えていましたが、令和2年以降80名前後となり、今後急激に減ることはないものの、0～5歳までの子供の数は減っていく予測ができます。0～2歳児の未満児の入所数はある程度増えますが、3～5歳児の入所数は徐々に減っていくことが予想されます。

地区別・学年別の子供の数をみると、下市田区が一番多いものの、全体の人数で見ると減少傾向です。保育園の定員について、今現在山吹90名、下市田120名、みつば90名、ぼどま155名、計455名で整備されています。今後の入所数の推移を見た結果、全体で400名を大きく割り込んでくる予測ができますので、全体で400名強の余力を持っていれば、今後保育園の全体で定員数は400～420名ほどに見直しを考えています。

認定こども園（定員ぼどま155名、新みつば120名）は満3歳以上で保育認定がなくても通園ができる1号認定（ぼどま21名、新みつば15名）もありますので、今後町外からの受け入れも増えるのではないかと考えています。

今後の入所数の推移を見ていただき、ぼどま・新みつばの定員を除き、山吹・下市田の定員を計130～150名に減らしていくことについて、ご意見をいただけたらと思います。

事務局)

令和5年度以降、今後5年間で351人（4/1時点）まで減少すると予測しています。ぼどま・新みつばで275名の定員があるので、残り80～100名が山吹・下市田での必要な定員数となります。

公立の保育園として山吹・下市田の2園を残していくことが妥当か、定員をどう見直すかを検討していただきたいと思います。

会長)

高森町の子どもの数が減っている中で、公立の保育園は2園必要であると町は考えていますが、今後の子どもの数の減少を踏まえて、現在の山吹90名・下市田120名の定員を減らすこと、公立の保育園として2園を残すことについて、ご意見をお願いします。

委員)

定員の見直しはニーズに合わせて減らしていいと思いますが、未満児の入所者数は今後も変わらないと思うので、未満児の受け入れ数は確保してほしいです。その地域に保育園があることにより、小中学校に上がった時に同じ保育園に通った子同士でのつながりができていくので、地域に保育園があることは重要であると思います。

最近子どもが産まれた方からお聞きしましたが、地域の保育園に未満児での入所が難しいと聞き、将来的には地域の保育園に通いたいという思いがあるそうです。

会長)

今後の未満児の入園、他市町村からの入園の数をみても、ぱどま・新みつばで275人、残りの130～150人を公立で確保ができればということですが、そうすると公立は縮小せざるを得ないと思います。

委員)

冒頭の町長の話で、保育園は3園にしてもいいのではという話があったのですが、私立2園・公立2園を残す方向で話を進めていいのでしょうか。

この先3園になった場合、どの保育園が存続するのか、他市町村からの入園者数を踏まえて定員を決めていくのか、説明をお願いします。

事務局)

町長からは人数だけ見ると3園にということも視野に入れて検討してもよいという意見ですが、山吹保育園はそのまま北小学校にあがることもあるので、教育委員会とすると、子どもの人数の推移から、当面は公立2園必要であると考えています。ただし、長い将来を見たときに、3園になることも考えられますが、その場合、どのようにどの場所で改修するのが適切であるか、皆様からご意見をいただけたらと思います。ただ、公立保育園の果たす役割とすると、下市田に1園、山吹に1園は必要であるという判断です。

委員)

この資料から将来の人数を見た中で、今後5年の推移だけで、今年度5園から4園へ減らしたこともあり、またすぐに4園から3園になると町民の理解が得られにくいと思います。

また、山吹と下市田は場所が離れているので、ここを統合することは難しいと思います。ただ、人数の推移をみる限り定員を減らさざるを得ないと思います。

会長)

定員を減らすことについて、また公立を2園残すことについて、教育委員会案にご異議はありますか。

一同 賛成。

#### 【下市田・山吹の大規模改修について】

より

事務局)

令和5年度下市田の大規模改修、令和6年度山吹保育園の大規模改修を予定しています。

下市田保育園については、建替えではなく、現地で現在の建物の柱・屋根を活かしながら、耐震も含めて改修をします。ただし、調理室は現在の基準に合わせての建て替えが必要なため、新設も検討しています。

大改修の間、下市田保育園に通う子どもたちは、吉田保育園またはみつば保育園を仮園舎として利用する予定です。定員を減らしていきますので、それに即した規模の保育園に改修を進めてまいりたいと思います。

ハザードマップで園庭の一部が土砂災害警戒区域（イエローゾーン）にかかっており、園舎には影響がないものの、その点についての懸念があればご意見をいただきたいと思います。

会長)

教育委員会からのとおり、現地での改修をし、その間は吉田・みつばの空き園舎を使って保育を実施、改修のやり方は保護者の意見を聞きながら、検討していくということです。ただ、保育園の園庭がイエローゾーンにかかっていることですので、意見をお聞きしたい。

事務局)

これは県が調査し示したハザードマップですが、町とすると園舎にはかかっていないこともあり、園舎の耐震性を高めることで、安全性を確保し、現在の場所での改修を進めてまいりたいと考えています。また大雨等の災害時には早めに降園（避難）させる等の対応をとっています。

会長)

改修については、これから下市田保育園に通う保護者の皆さんたちや、他の方たちにもご意見を聞いていただき、次回の会議の際にご意見をいただけたらと思います。

委員)

以前それぞれの園舎の築年数を出してもらいましたが、耐震をクリアしているものとして判断しているのか、それとも改修の際に耐震を強化していくのでしょうか。

事務局)

大規模改修の際に耐震の調査をしたうえで、耐震も含めて改修していきます。現在の耐震については、専門家に聞いたところ、保育園は平屋なので、屋根がそれほど重くなく、また柱や壁が多くあるので、老朽化は進んでいるものの、耐震は問題ないという意見をいただいています。ただ、前回平成8年の耐震診断では問題はなかったものの、診断から20年以上が経過しているので、大規模改修の際に、どのような補強が必要か専門家の意見を聞きながら行っていきます。

委員)

議会の中でも、下市田の改修・移転についての意見が出ており、イエローゾーンにかかっていますので、移転をしたほうが良いと個人の意見があります。

ハザードマップの図が見にくく、その実態がつかめないので、今回は場所の詳しい図を示していただきたいです。この会議の中でいい方向性を出し、町の保育園について町に提言していきたいです。危険ということで下市田保育園を移転と考えたときに、近隣に公共施設はたくさんある中で、町民の安全を考えると、この件は町全体として考えていく必要があると思います。

会長)

次回には、見やすいマップの提示、また、なぜ現地改修なのか、町の意見を示していただきたいと思います。

健康福祉課長)

ハザードマップについて、この場所は「茶色枠のイエローゾーン」なので、地滑りの危険性を示しています。大雨時だけでなく、通常時でも起こりうる可能性があり、地滑りがしやすいということになります。茶色枠のイエローゾーンで示している場所が、平常時での地滑りの危険度やその範囲について、土石流のイエローゾーンとどう違うのかを次回説明させていただきます。

### (3) その他

認定こども園ぱどま 宮原園長)

4月に開園をし、149名のお子さん、保護者の期待を受けて、運営を開始することができました。ここ数年は役場、町内の皆様からのご支援の下、進めてまいりました。まだ始まったばかりですが、この席でお礼とご報告をさせていただきます。

町、地域の子どもたちをお預かりし、大人になるまでの基盤を培うための場所として、保育に努めてまいりたいと思います。今週末の一般開放もありますが、お近くにお寄りの際は、園舎をご覧いただきたいと思います。約40年前は町内に6つの保育園があり、現在の4園になるまで、全ての時に白百合福祉会が携わってまいりました。我々の先人がその時々保護者の皆様の期待を受けて、叱咤激励を支えに進んできました。それが少しでも地域の子育て、まちづくりに還元できればという思いでやってきました。現在お預かりしているお子さん達を守っていくことを軸に今後も進んでまいりたいと思います。

## 5. 閉 会